

南相馬市・飯舘村 定住自立圏共生ビジョン

～「定住」、「自立」に向けて地域を磨く地域創造戦略として～



平成22年 2月

南相馬市・飯舘村

目 次

I. はじめに	1
1 定住自立圏構想の概要	
2 定住自立圏及び市町村の名称	
3 これまでの経過	
4 ビジョン策定の趣旨	
5 ビジョンの期間及び進行管理	
II. 基本方針	2
1 将来像	
2 基本理念	
3 定住自立圏形成の3つの視点	
III. 連携して推進する政策分野	
(1) 施策の体系図	4
(2) 生活機能強化のための政策分野	
ア 医療	5
イ 福祉	8
ウ 教育	10
エ 産業振興	12
オ 環境	18
カ 衛生	22
(3) 結びつきやネットワーク強化に係る政策分野	
ア 地域公共交通	23
イ デジタル・ディバイドの解消に向けたICTインフラ整備	24
ウ 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消	26
エ 地域内外の住民との交流・移住促進	28
オ 共同設置による効率的な組織の運営	30
(4) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	
ア 圏域内自治体職員の人材育成と相互交流	31
IV. 定住自立圏共生ビジョン懇談会名簿	32

I はじめに

(1) 定住自立圏構想の概要

わが国は、少子・高齢化の進展に伴い人口減少社会が進むと考えられ、地方圏はもとより都市圏も人口が減少するという「過密なき過疎」の時代が予想されます。

このような状況を踏まえ地方圏においても、安心して暮らせる地域を形成することが求められています。

定住自立圏構想は、中心市と周辺市町村で形成される圏域において、中心市では圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備するとともに、周辺市町村の必要な生活機能を確保し、農林水産業の振興や豊かな自然環境の保全等を図るなど、互いに連携・協力することにより、圏域全体の活性化を図ることを目的としています。

(2) 定住自立圏及び市町村の名称

定住自立圏の名称	:	南相馬圏域定住自立圏
構成市町村の名称	:	中心市 南相馬市
		周辺市町村 飯舘村

(3) これまでの経過

平成 20 年 10 月 28 日	南相馬市が先行実施団体の決定を受ける
平成 21 年 3 月 25 日	南相馬市で中心市宣言を行う
平成 21 年 9 月 11 日	飯舘村で協定書(案)の議決を受ける
平成 21 年 9 月 25 日	南相馬市で協定書(案)の議決受ける
平成 21 年 10 月 6 日	南相馬市、飯舘村での協定書を締結する

(4) ビジョン策定の趣旨

南相馬市と飯舘村は、この定住自立圏構想に沿ってさまざまな分野で協定を締結したが、これら取組の確実な実現を目指し「南相馬市・飯舘村定住自立圏共生ビジョン」を策定します。

(5) ビジョンの期間及び進行管理

本ビジョンの期間は、平成 22 年度を初年度とし、平成 26 年度までの 5 年間とします。

なお、ビジョンの実行を確実なものとするため、年度毎の進行管理とともに必要に応じ所要の変更を行うものとします。

Ⅱ 基本方針

(1) 将来像

福島県浜通り地方北部の相馬地方は、地理的な近接性に加え、古くから国指定重要無形民俗文化財である相馬野馬追をはじめとする歴史や文化を共有し、生活面はもとより、行政、観光、経済などの多くの面で結びつきを重ねてきました。

このような結びつきから、相馬地方は4市町村のエリアにより広域行政圏を形成し、消防、看護専門学校の設定・運営などを行ってきており、特に南相馬市と飯舘村とは、環境衛生施設などの共同運営のため一部事務組合を組織するなど、共通する課題に対して連携を図ってきました。

現在、少子・高齢化と人口減少、地方圏から東京圏への人口の流出、地域経済の低迷に伴う厳しい財政状況など、地方圏の現状は極めて厳しい状況にあります。

このような課題に適切に対応し、将来とも持続可能な自治体として、子どもたちへ誇りをもって引き継いでいけるまちづくりを実現するため、定住自立圏を形成し、中心市の都市機能の充実を図り、周辺市町村と有機的に連携して、地方圏への人の流れの誘導、ライフステージに応じた多様な選択肢の提供など、「定住」のための暮らしに必要な諸機能を確保するとともに、「自立」のための経済基盤や地域の魅力を醸成し、圏域全体として魅力あふれる地域の形成や更なる新しい価値の創造を目指します。

(2) 基本理念

南相馬市と飯舘村において、一定の集積された都市機能の充実を図るとともに、環境や地域コミュニティなど農山漁村機能の有機的な連携と、互いに有する資源の有効活用を図りながら、圏域全体の暮らしに必要な生活機能を確保するため互いに連携・協力することとします。

(3) 定住自立圏形成の3つの視点

将来像の具現化に向け、定住自立圏構想の「集約とネットワーク」の考え方を基本として、

- i 生活機能の強化（暮らしに必要な諸機能を総体として確保する）
- ii 結びつきやネットワークの強化（連携・協力により圏域全体の活性化を図る）
- iii 圏域マネジメント能力の強化（地域を牽引する人材を確保し育成する）

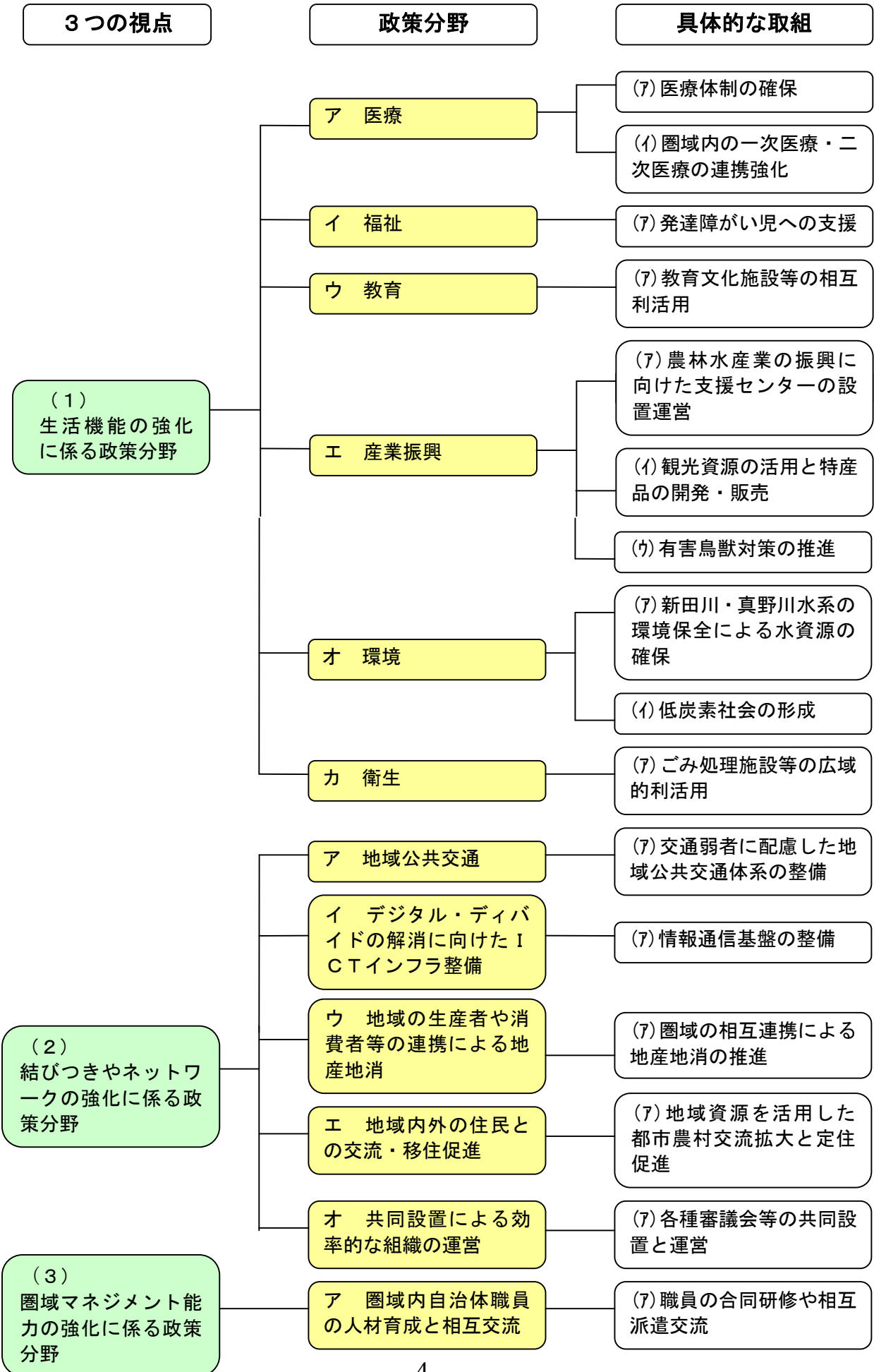
の3つの視点から、人口定住のために必要な生活機能を確保します。

**南相馬市・飯舘村
定住自立圏共生ビジョン**



政策分野のアクションプラン

定住自立圏構想実現に向けた施策の体系図



(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1)ア(ア) 医療体制の確保
事業概要	現 状 課 題	○市立総合病院の医師数は基準の24人に対し、常勤医師が11人である。 ○高度医療機器による早期の病巣の発見・治療が求められている。 ○夜間小児救急外来は、受診者も多く、引き続き継続する必要がある。 ○ドクターヘリの運行が気象条件に左右されるため、別の救急搬送経路を確保する必要がある。
	取 組 内 容	○高度・特殊・先駆的な医療を担う相双地域の基幹病院である南相馬市立総合病院において、より安定した圏域医療を確保するため、十分な対応ができる医師の確保、高度医療機器の充実、他の診療所との連携強化と体制整備、救急搬送の連絡網の整備を行う。 南相馬市の役割：①医師の確保、②高度医療機器の充実 ③夜間小児救急外来の維持、充実、 飯館村の役割：④救急搬送時の連絡網の整備
	成 果	○市立総合病院の機能充実により、地域完結型の医療体制を確保することができ、住民が心身ともに安心して医療が受けられる環境が実現できる。

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		①専門医研修資金貸与制度 市長が指定する診療科において、専門研修に必要な資金を貸与する。 月額22万円/人	南相馬市	31,680	2,640	5,280	7,920	7,920
	②高度医療機器の購入 H22 セントラルモニターほか H23 超音波診断装置ほか H24 ビデオスコープほか H25 X線CT装置ほか H26 全身麻酔装置ほか	南相馬市	539,174	94,274	111,000	46,900	223,200	63,800
	③夜間小児救急外来 診療場所 市立総合病院 受付時間 午後7時～10時 担当医師 1人 (医師会協力医師) *収支の差額及び研修費を負担する	南相馬市	14,999	2,999	3,000	3,000	3,000	3,000
	④連絡網の整備 (ドクターヘリの中継地点)	飯館村		調査研究				
	事業費(千円)		585,853	99,913	119,280	57,820	234,120	74,720
	国県補助金/地方債 名称	事業NO		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	病院事業債	②		91,500	111,000	46,900	223,200	63,800

*継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1) ア(イ) 圏域内の一次医療・二次医療の連携強化						
事業概要	現状課題	○圏域においては、県内他地域と比べ医師、特に勤務医が少ない。 ○住民の8割はかかりつけ医を持っているものの5割は病院をかかりつけ医としている。また、夜間や休日の急な病気等の際の受診先としては住民の9割が病院を受診先と考えており、勤務医の過重労働につながっている。 ○課題として、診療所と病院の本来の機能・役割を明確にするとともに、救急医療のうち初期救急医療対策が必要である。						
	取組内容	○限られた医療資源を有効に活用するため、相馬郡医師会、南相馬市医師会など医療機関関係者等で構成する南相馬市地域医療在り方検討委員会を中心に限られた医療資源の中で効率的な医療提供体制を構築する。 南相馬市の役割：①医療提供体制の整備 ②医療連携が促進されるシステムの構築 飯館村の役割：③南相馬市が構築したシステムの活用						
	成果	○病院勤務医の負担軽減が図られるとともに、診療所・病院の本来が機能を高められ、効率的な医療体制を確保することができ、住民が心身ともに安心して医療が受けられる環境となる。						
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	・地域医療在り方検討委員会運営費等 地域医療の課題解決に向け、医療提供体制・ネットワーク・初期救急医療体制などの検討を行う。	南相馬市	3,173	786	626	587	587	587
	①初期救急医療体制整備事業 救急医療体制の機能確保に向け、初期救急診療所の設置運営する。	南相馬市	58,000	調査・検討期間 ←→		32,000	13,000	13,000
	②地域医療機関間ネットワークシステム整備事業 二次医療機関間で診療情報及び画像情報を共有化する情報ネットワークを構築する。	南相馬市	36,000			12,000	12,000	12,000
	事業費(千円)		97,173	786	626	44,587	25,587	25,587
	国庫補助金/地方債 名称	事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	病院事業債	①			19,000	3,000	3,000	
	医療提供体制施設整備交付金(県)	①			13,000			
	小児初期救急補助金(県)	①				1,000	1,000	
	地域活性化事業債	②			10,800	10,800	10,800	

*継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

—限られた医療資源を有効に活用するための方策—

(地域医療検討イメージ図)

南相馬市地域医療在り方検討委員会

構成委員：医師会代表 4 人
市内民間病院代表 5 人
市立病院代表 2 人
薬剤師会代表 1 人
相双保健福祉事務所代表 1 人

<地域医療の課題>

- ・医師不足
- ・夜間・休日の救急（軽症者）の病院受診、市民の「かかりつけ医」の大半は病院により病院本来の機能が十分に発揮できていない。
- ・夜間休日の対応は市外からの患者流入により多忙な状態。
- ・勤務医の加重労働。など

<提言>

- ①地域医療機関間ネットワークの構築
- ②初期救急医療体制の充実

地域医療機関間ネットワーク作業部会

構成委員：市内民間病院 4 人
市立病院代表 2 人
薬剤師会代表 1 人

主な検討項目

- ・ネットワークについて
- ・情報提供について

初期救急医療体制整備作業部会

構成委員：医師会代表 4 人
相双保健福祉事務所代表 1 人

主な検討項目

- ・初期救急診療所の設置場所について
- ・初期救急診療所の運営等について

(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1)イ(ア) 発達障がい児への支援
事業概要	現 状 題	○発達に何らかの手立てを要する子供の数が増加の傾向にあり、保護者の不安軽減や障がいの早期発見・早期治療に努める必要がある。 ○就学前と就学後の連携した支援・指導を図る必要がある。
	取 組 容	○乳幼児期から学童期にかけて支援を要する子どもの養育支援と保護者の不安軽減を図るため、支援する機関を設置し、発達に係る関係機関と連携と支援のコーディネートを行う。 南相馬市の役割：①発達支援室及び特別支援広域連携センターの設置運営 飯館村の役割：②上記施設の支援及び経費の負担
	成 果	○体制整備により、幼児期から発達に応じて適切な支援を一貫性をもって実施することができ、子供の健全な成長を促すことができる。

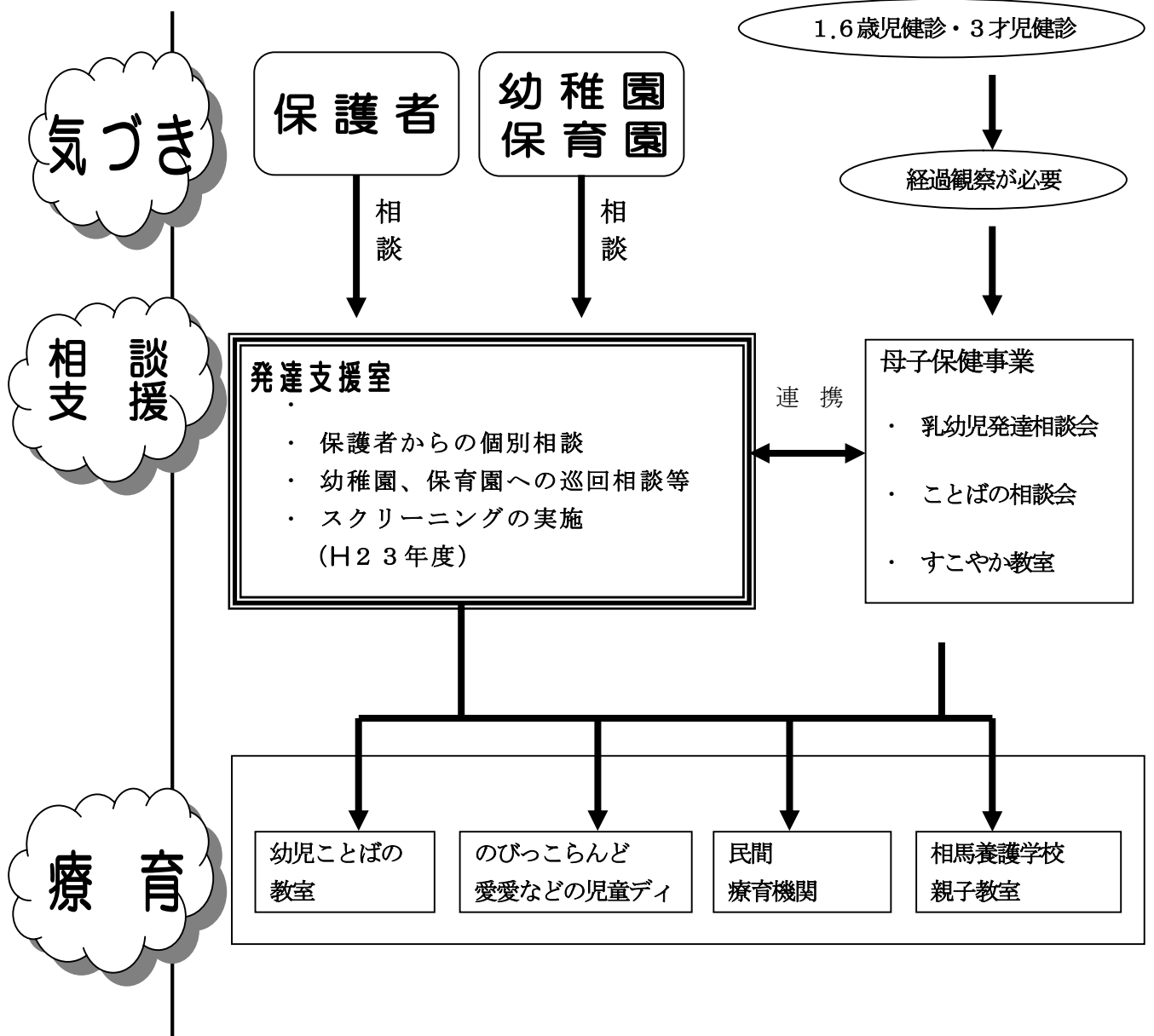
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	①-1発達支援室の設置 H22.4 南相馬市役所内開所体制 保健師 言語聴覚士 臨床心理士	南相馬市	98,013	19,613	19,600	19,600	19,600	19,600	19,600
	①-2福島県発達障がい害支援センター(郡山市)との連携	南相馬市		—	—	—	—	—	
	②発達支援室運営への支援及び経費の負担	飯館村		所要額				所要額	
	事業費(千円)		98,013	19,613	19,600	19,600	19,600	19,600	
	国県補助金/地方債 名称	事業N0		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	次世代育成支援対策交付金(国)	①-1		3,902	3,900	3,900	3,900	3,900	

*継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

発達支援室の役割

『医療へのつなぎ』

<乳幼児期における気づきから療育まで>

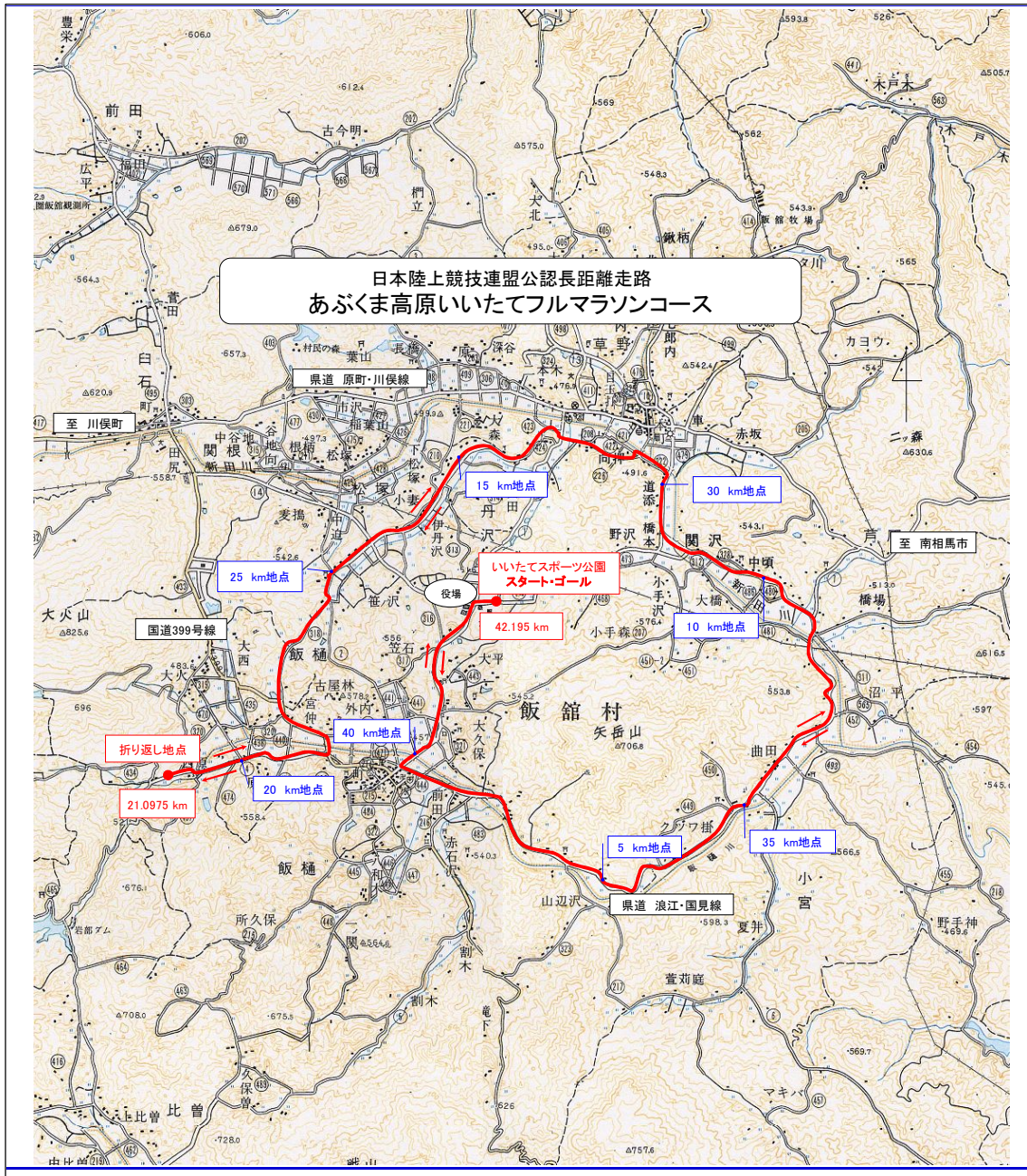


(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1)ウ(ア) 教育文化施設等の相互利活用
事業概要	現 状 題	○新たに建設した南相馬市立図書館の利活用を図り、図書館サービスの地域間格差を解消する必要がある。 ○第3種公認期限が平成23年8月までであり、公認更新に向け改修工事を実施する必要がある。 ○圏域内にフルマラソンコースを整備する必要がある。
	取 組 内 容	○南相馬市立中央図書館を拠点とした蔵書等の相互利活用をはじめ、それぞれが所有する公共施設を相互に利活用する。 南相馬市の役割：①南相馬市立中央図書館のサービス機能充実 ②雲雀ヶ原陸上競技場の第3種公認認定更新 飯館村の役割：③財団法人日本陸上競技連盟公認フルマラソンコースの認定取得
	成 果	○南相馬市立中央図書館を拠点施設とし、生涯にわたって学び、趣味や生活を楽しみながらゆとりをもった暮らしができる。 ○施設利用者の利便性を高めるとともに競技力向上と、大会の誘致が図られる。

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①中央図書館のサービス機能充実 (インターネット貸出し 配本車の設置 ブックトークなど)	南相馬市		計画策定	事業実施			
	②雲雀ヶ原陸上競技場の第3種公認認定更新 全天候型に改修する。 (平成21年度～平成22年度)	南相馬市	641,070	452,001				
	③フルマラソンコースの設定 H21 認定取得 H22 案内板等の設置 H23～PRイベント開催 (隔年)	飯館村	35,000	3,000	2,000	10,000	10,000	10,000
	事業費(千円)		676,070	455,001	2,000	10,000	10,000	10,000
	国県補助金/地方債 名称	事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	電源地域振興・地域資源活性化事業助成金	②	300,992					
福島県貸付金	②	139,800						
電源地域振興・原子力等立地地域振興事業助成金	③	2,000	1,333	6,666	6,666	6,666		

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。



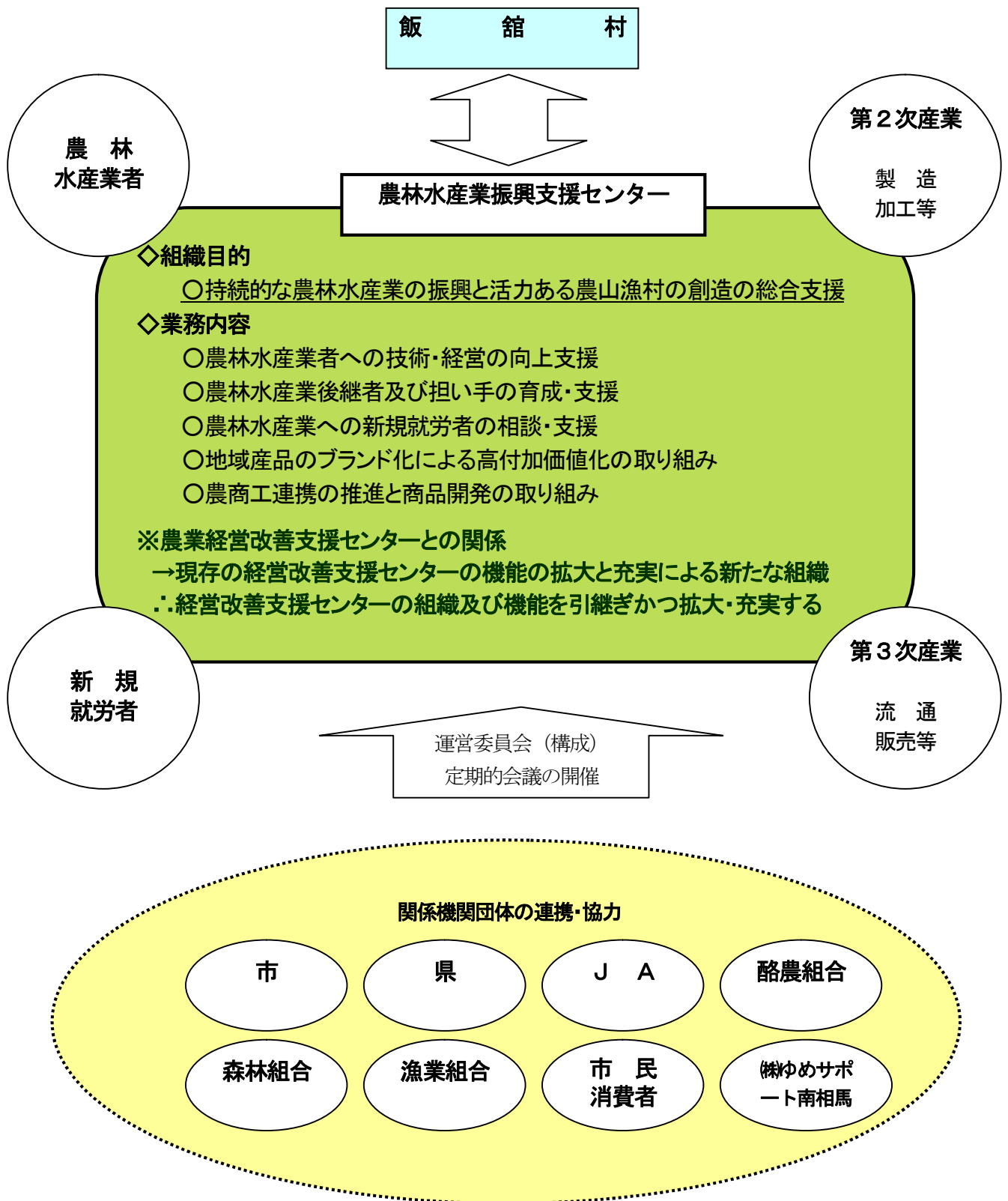
(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1) エ(ア) 農林水産業の振興に向けた支援センターの設置運営
事業概要	現 状 題	○農業において、米消費の減少や米価の低迷により農業生産所得が年々低下し、農業従事者の減少や耕作放棄地の拡大など悪循環の傾向にある。 ○林業において、木材価格の低下により生産活動が停滞し、林業従事者が年々減少しており、森林の適正な保育がなされていない。 ○水産業において、水産業従事者が減少しており水揚金額も横ばい状態である。
	取 組 容	○圏域の基幹産業である農林水産業の持続的な振興と活力ある農山漁村を創造するための中核的支援組織である「農林水産業振興支援センター」を設置し、後継者や新規就労者など担い手の育成支援をはじめ、生産技術や経営力の向上のための研修会開催、相談・指導、商品開発や販路拡大を目指した第6次産業化などに取り組む。 南相馬市の役割：①農林水産業振興支援センターへの支援 飯館村の役割：①農林水産業振興支援センターへの支援
	成 果	○支援センター活動への行政支援により、農林水産業への新たな就業、後継者の育成支援、他業種との連携による商品開発や販路拡大などにより経営力が向上し、持続的な農林水産業の振興と活力ある農山漁村の創造が図られる。

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		①農林水産業振興支援センターへの支援 *飯館村の支援センターとの連携、協力を推進する。	南相馬市	68,041	8,041	10,000	10,000	20,000
	①農林水産業振興支援センターへの支援 *南相馬市の支援センターとの連携、協力を推進する。	飯館村	4,000		1,000	1,000	1,000	1,000
	事業費(千円)		72,041	8,041	11,000	11,000	21,000	21,000
	国県補助金/地方債 名称	事業NO		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度

*継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

南相馬市農林水産業振興支援センター（仮称）概要



(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1)エ(イ) 観光資源の活用と特産品の開発・販売 1/2
事業概要	現 状 題	<p>○当地方最大のイベントである「相馬野馬追」などの観光資源は、一年を通して観光産業面での経済効果を十分に発揮しているとは言えず、また豊かな自然環境も観光資源としてほとんど活用されていない。</p> <p>○地域資源循環型農業の推進によるブランド確立とともに、地域産品を活かした新たな商品開発や特産品づくり及び販路拡大が課題となっている。</p> <p>○圏域の大部分を占める森林資源の有効活用がされていない状況にあり、癒しや健康づくりなどに対する森林空間の活用が求められている。</p>
	取 組 内 容	<p>○山・川・海の自然景観や歴史・伝統・文化の地域資源など、圏域に存する様々な観光資源を再検証し、積極的に利活用を図るとともに、関連施設等の維持保存や利活用など、必要に応じた改修及び整備を行う。</p> <p>また、地域の貯存する未利用バイオマスを活かした地域資源循環型の安全安心な農産物生産などによるブランド化の推進や農商工連携による商品開発など六次産業化に取り組む。</p> <p>南相馬市の役割：①観光ルートの設定や情報を発信 ②特産品の開発や地域産品の販売促進</p> <p>飯館村の役割：②特産品の開発や地域産品の販売促進 ③森林浴や散策路など心身の健康づくりの空間創出</p>
	成 果	<p>○観光資源のネットワーク化と観光商品開発により、観光客数の増加が図られる</p> <p>○地域の農産物・食品を販売する機会を増やすことで、地域農業と関連産業の活性化が図られる。</p> <p>○森林資源や森林空間の利活用促進により、活力ある山村が形成される。</p>

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①飯館村との連携による観光ルートの設定や情報を発信 観光資源の発掘 観光ルート作成 観光マップ作成	南相馬市	6,544	2,544	1,000	1,000	1,000	1,000
	②-1飯館村との連携による特産品の開発や地域産品の販売促進 商品開発連携事業 販路開拓 共同交流イベントの実施	南相馬市	4,617	617	1,000	1,000	1,000	1,000
	②-2南相馬市との連携による特産品の開発や地域産品の販売促進 商品開発連携事業 販路開拓 共同交流イベントの実施	飯館村	10,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	②-3観光協会設立への支援	飯館村	4,000		1,000	1,000	1,000	1,000
	国県補助金/地方債 名称	事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	緊急雇用創出事業費補助金(県)	①	2,544					

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1) エ(イ) 観光資源の活用と特産品の開発・販売		2 / 2				
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	②-4野菜加工施設整備	飯館村	310,000		10,000	300,000		
	③森と湖・心身の健康づくりの空間創出 散策路整備 H25 ①あいの沢 ②大倉	飯館村	510,000			10,000	500,000	
	事業費(千円)		845,161	5,161	15,000	315,000	505,000	5,000
	国県補助金/地方債 名称		事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	農山漁活活性化プロジェクト支援交付金(国)		②-4		5,000	150,000		
	電源地域振興・地域資源活性化事業補助金		③			6,000	130,000	
	過疎債		③			4,000	370,000	

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。



(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1)エ(ウ) 有害鳥獣対策の推進
事業概要	現 状 題	○近年、森林の人工林による針葉樹林化によりサルやイノシシ等のえさが不足すなどにより、いわゆる有害鳥獣が里に出現し農地や農作物へ被害を与え、捕獲隊による捕獲や電気柵の設置などの対策を講じているものの依然として被害が増えている状況にある。
	取 組 容	○有害鳥獣による農産物、林産物の被害防止や日常生活への不安解消のため、圏域内における各種情報の共有のうえに連携し、捕獲活動の実施や農作物の被害防止活動に総合的に取り組む。 南相馬市の役割：①緊密な情報交換を行い、有効な手段の構築・実行 飯館村の役割：①緊密な情報交換を行い、有効な手段の構築・実行
	成 果	○鳥獣による農作物等の被害を防ぎ農家収入の安定が図られるとともに、安全安心な農山村生活が確保される。

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		①有害鳥獣対策事業 ・捕獲隊の編成 ・各被害対策機器の購入 ・安全教育研修会の開催 ・各地区のネットワーク構築 ・ハンターの育成	南相馬市	71,118	11,118	15,000	15,000	15,000
	①有害鳥獣対策事業 ・捕獲隊の編成 ・獣害防止さく設置補助 ・被害防止機器の購入 ・農地周辺の山林整備	飯館村	37,687	19,147	4,635	4,635	4,635	4,635
	事業費(千円)		108,805	30,265	19,635	19,635	19,635	19,635
	国県補助金/地方債 名称	事業NO		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	鳥獣害防止総合対策事業(国)	②		2,000				
	福島県ふるさと雇用再生特別基金事業(県)	②		12,512				

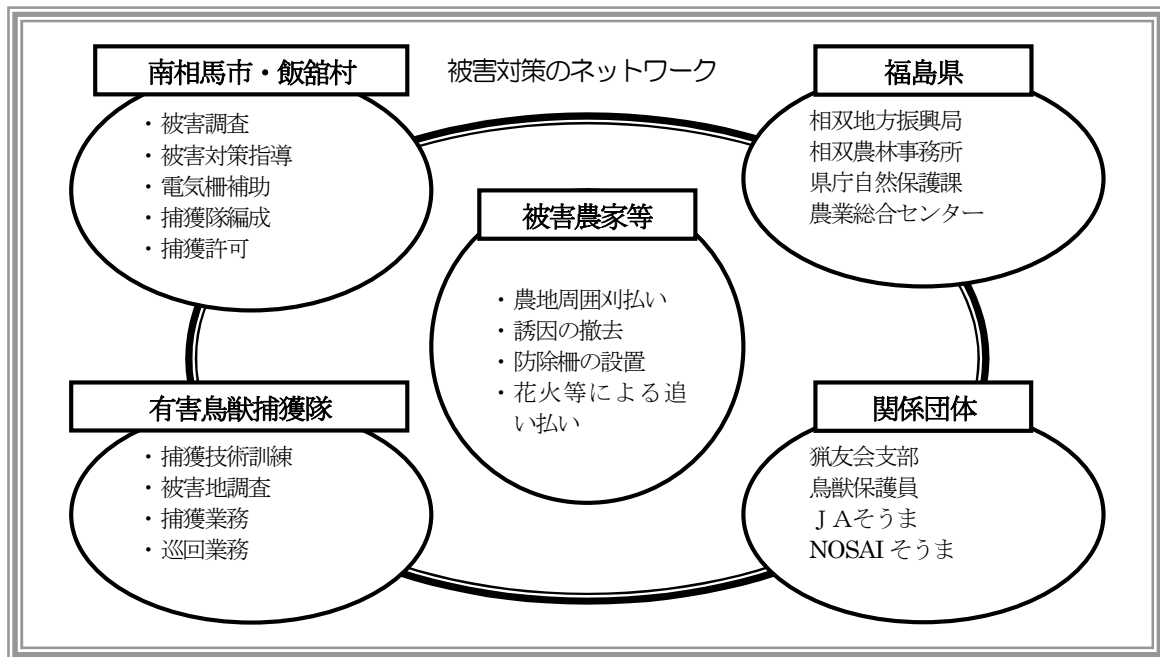
*継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

鳥獣害対策施策（概要）

野生鳥獣による農林水産業被害は全国的な問題となっているが、特にイノシシやニホンザル等による被害が顕著である。

これまで全国各地で有害鳥獣捕獲が実施されているが、依然として被害は減少しておらず、捕獲のみに頼った対策で被害を軽減することは困難である。

有害鳥獣捕獲と農業者等による被害対策とを組み合わせる必要があるとあり、市は、関係機関・関係団体と連携しながら必要な施策を講じている。



【農家等の被害対策の推進】

- ① 被害相談（窓口・電話・訪問）
- ② 被害対策指導
- ③ 被害対策の周知啓発（広報・チラシ等）
- ④ 追い払い資材（ロケット花火等）の配付
- ⑤ 電気柵設置補助金交付

【有害鳥獣捕獲の実施】

- ① 有害鳥獣捕獲隊の編成（委嘱）
- ② 有害鳥獣捕獲許可
- ③ 捕獲隊への業務指示（捕獲・巡回等）
- ④ 被害状況・捕獲実績調査

(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1)オ(ア) 新田川・真野川水系の環境保全による水資源の確保 1/2
事業概要	現状課題	○水源地である上流域の森林においては、木材価格の低下や林業従事者の減少や高齢化などにより、適正な森林施業が行なわれていない状況にあり、森林が健康な状態で水源かん養などの多面的機能を発揮するため、森林の手入れを必要としている。 ○また、河川の上流域において、家畜の堆肥や汚水の処理が十分でない状況も見られることから、圏域が一体となった対策が求められている。
	取組内容	○保育や間伐などの適正な森林施業により、水源の涵養、土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収・貯蔵をはじめとする地球環境保全など森林のもつ多面的機能を発揮を維持するため、森林林業再生機構を構築し中核的に事業を展開する。 南相馬市の役割：①森林環境の適正な保全 ②汚水処理など排水浄化の取組 ③乙の地域への支援策の構築 飯館村の役割：①森林環境の適正な保全 ②汚水処理など排水浄化の取組
	成果	○適正な森林施業により、森林の持つ多面的機能の発揮を維持するとともに、適正かつ確実な汚水排水処理により良質な水源の確保が図られる。

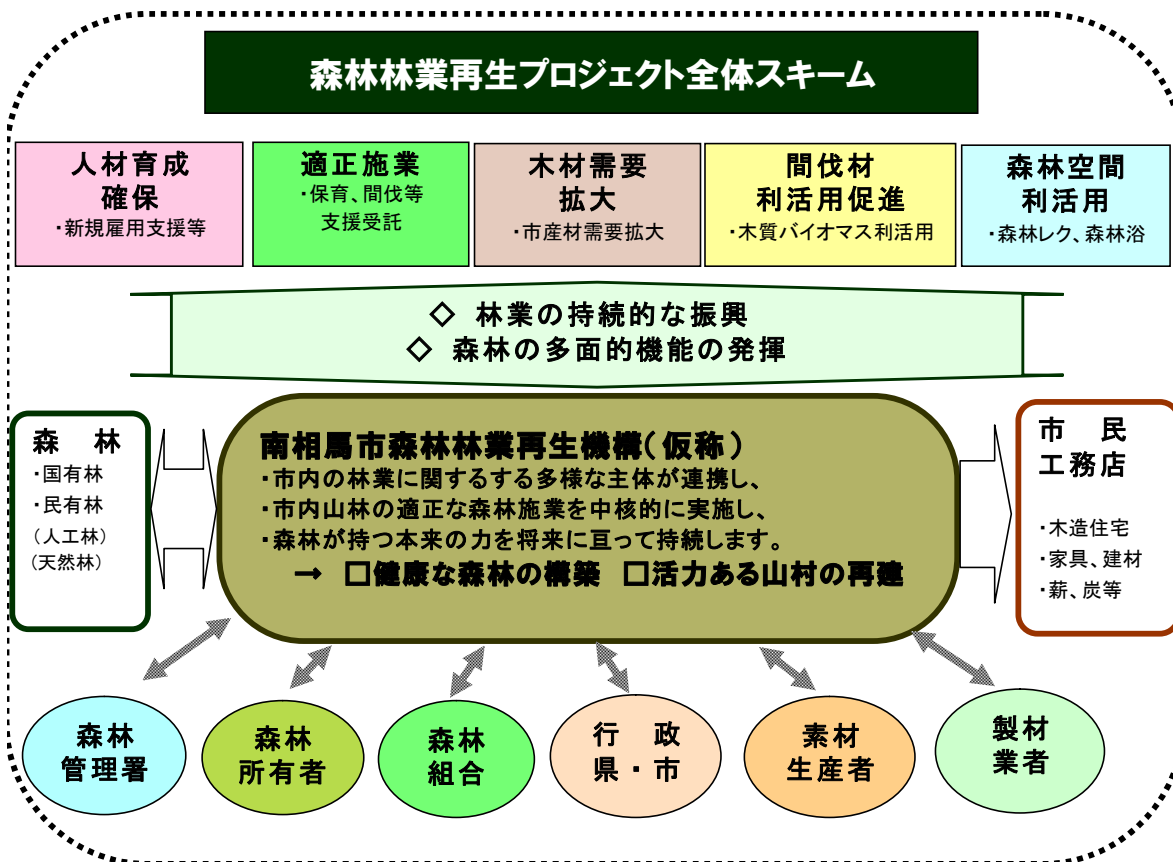
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		①-1 森林環境の適正な保全 ・南相馬市森林林業再生機構 (林業の持続的な振興、森林の多面的機能の発揮) ・間伐、下刈り	南相馬市	196,592	36,592	40,000	40,000	40,000
	①-2 森林環境の適正な保全 ・間伐、下刈り	飯館村	34,318	14,318	5,000	5,000	5,000	5,000
	②堆肥盤整備支援	飯館村	5,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	③支援制度の構築 河川の上流・下流の関係から、水質保全に向けた取組に対する支援制度を創設する。	南相馬市		調査研究				
	国県補助金/地方債 名称	事業NO		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	森林整備地域活動支援交付金(県)	①-1		1,863	1,900	1,900	1,900	1,900
	森林整備加速化・林業再生事業補助金(県)	①-1		14,450	14,500	14,500	14,500	14,500
	森林環境交付金(県)	①-2		2,127	2,000	2,000	2,000	2,000
	森林整備加速化・林業再生基金事業費補助金(県)	①-2		7,500				

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1) オ(ア) 新田川・真野川水系の環境保全による水資源の確保 2 / 2						
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	水環境保全条例の制定 ・南相馬市・飯館村検討委員会の設置	南相馬市 飯館村		調査研究	条例制定	条例施行		
	事業費(千円)		235,910	51,910	46,000	46,000	46,000	46,000
	国県補助金/地方債 名称	事業NO		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。



(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1) オ(イ) 低炭素社会の形成	1 / 2					
事業概要	現状課題	<p>○化石燃料の使用によるCO₂の増加により地球温暖化が進み、世界規模での異常気象など、地球の将来が懸念される。</p> <p>○平成20年に京都議定書の第1約束機期間が始まり、二酸化炭素の森林吸収による低炭素社会の実現への期待から森林整備が求められている。</p>						
	取組内容	<p>○二酸化炭素排出量の削減に取り組むとともに持続的に利用できるエネルギー資源への転換を図り、環境負荷の少ない低炭素社会の形成に向けた住民の意識の高揚を図る。</p> <p>○また、行政自らは環境マネジメントシステムを持続徹底するとともに、企業系の低炭素活動についても支援する。</p> <p>南相馬市の役割：①二酸化炭素排出量の削減の取組を支援 ②公共施設に新エネルギーの導入促進 ③バイオマスタウン構想の実現</p> <p>飯館村の役割：②公共施設に新エネルギーの導入促進 ④省エネルギーに対する家庭での意識の高揚</p>						
	成果	<p>○地域資源循環型の環境負荷の低減により、森林や海洋をはじめとする豊かで多様な自然環境を保全・再生し、自然と調和・共生した社会づくりを構築する。</p>						
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①-1 各種助成制度の運用 ・中小企業省エネルギー対策支援事業助成金 ・地域新エネルギー導入支援補助金 (太陽光発電)	南相馬市	32,460	6,460	6,500	6,500	6,500	6,500
	①-2 新エネルギー補助事業 ・設備導入補助金 (太陽光発電、太陽熱利用、小型風力発電)	飯館村	22,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
	②-1 公共施設への導入 ・ペレットストーブ H22 導入施設等の検討 H23 施設整備計画策定	南相馬市	1,032	512	520			
	②-2 公共施設への導入 H22 太陽光発電(庁舎) H25 チップボイラー導入(庁舎)	飯館村	91,857	41,857			50,000	
	国県補助金/地方債 名称	事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	社会資本整備総合交付金(国)	①-1	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	
	森林環境交付金(県)	②-1	490	490				
	森林環境交付金(県)	②-2	2,003					
	公共施設省エネ改修等事業費補助金(県)	②-2	25,000					

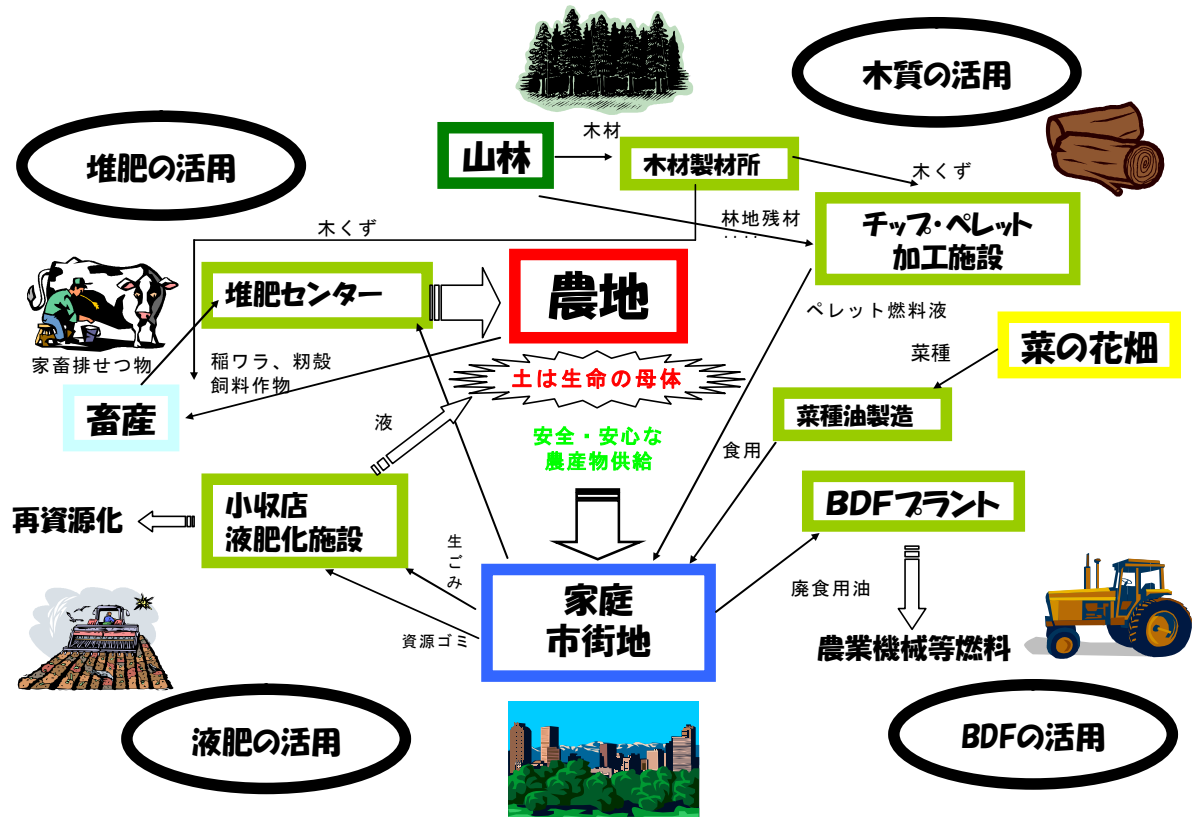
*継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1) オ(イ) 低炭素社会の形成						2 / 2
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	③バイオマスタウン構想実現 圏域を対象に、効果的なシステムを構築する。	南相馬市		調査研究				
	④エコハウス整備 環境学習プログラム開発	飯舘村	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	事業費(千円)		197,849	63,329	21,520	21,000	71,000	21,000
	国県補助金/地方債 名称	事業NO		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

南相馬圏域におけるバイオマス利活用の相関図



(1)生活機能の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(1)カ(ア) ごみ処理施設等の広域的利活用						
事業概要	現課題	○飯舘村の焼却施設の処理能力及び耐用年数が限界にきている。 また、現有施設では廃プラスチックごみの焼却ができないため、ストック状態にある。						
	取組内容	○ごみの広域処理の観点及び環境側面を考慮し、甲の所有するごみ処理施設の広域的利活用を図る観点から、乙の可燃ごみを受け入れる。 また、今後同様の施設の更新を行う際には、引き続き広域処理の観点により対応する。 南相馬市の役割：①施設の適正な維持管理 ②分別収集と資源リサイクルの推進 飯舘村の役割：②分別収集と資源リサイクルの推進 ③施設運営経費の負担						
	成果	○飯舘村の環境保全が図られるとともに、南相馬市の現有施設の有効活用により効率的なごみ処理を行うことができる。						
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①修繕計画による大規模修繕 H22耐火炉、バグフィルタなど H23ガス冷却、ロストルなど H24シュートなど H25耐火炉、ロストルなど H26ガス冷却バグフィルタなど	南相馬市	385,143	76,243	77,100	78,900	75,200	77,700
	②分別収集とリサイクル運動の推進 ・資源ごみ回収報奨金 ・生ごみ処理容器設置補助金 ・資源ごみ収集業務委託	南相馬市	374,969	74,969	75,000	75,000	75,000	75,000
	②分別収集とリサイクル運動の推進 ・資源ごみ回収奨励金 ・生ごみ処理機維持管理経費 ・リサイクル推進経費	飯舘村	16,979	2,979	3,500	3,500	3,500	3,500
	③可燃ごみ焼却処分委託料 搬入量に処理原価を乗じた額を負担する	飯舘村	29,022	5,822	5,800	5,800	5,800	5,800
	事業費(千円)		806,113	160,013	161,400	163,200	159,500	162,000
	国県補助金/地方債 名称		事業N0	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	地域活性化・きめ細かな臨時交付金(国)		①	72,100				

*継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) ア(ア) 交通弱者に配慮した地域公共交通体系の整備
事業概要	現状課題	○路線バスの利用者の減少傾向によって路線の見直し減便が進められる一方、運行維持のための経費負担が増加している。 ○交通弱者である児童・生徒や高齢者の日常的な交通手段としての公共交通の確保が求められている。
	取組内容	○公共交通サービスを提供する交通事業者やサービスを受ける利用者、関連する商業施設や医療施設など、行政と様々な主体が協力・連携し、受益者負担を基本とする地域一体となった持続的な公共交通システムの構築を目指す。 南相馬市の役割：①デマンドシステムの導入検討、路線バスの再編 ②新たな交通手段の実証実験 ③原町川俣線の運行経路等を検証及び整備 飯館村の役割：③原町川俣線の運行経路等を検証及び整備
	成果	○新たな地域公共交通の整備により、交通弱者の日常的な交通手段を確保し、安心・安全で賑わいのあるまちづくりを進めることができる。

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①デマンド交通システム導入の検討 原町区内 アンケート調査 利用者会議 事業者会議	南相馬市	514	514				
②公共交通活性化協議会が行う実証実験への支援 実証実験内容 H23路線バス、シャトルバス(原町区)		南相馬市	25,000		25,000			
③原町川俣線の運行経路等の検証及び整備 バス事業者が行なうOD調査に基づき、飯館村、川俣町と協議する。		南相馬市			協議			
④原町川俣線の運行経路等の検証及び整備 H23 調査 H24 運行支援再整備		飯館村			調査	運行支援再整備		
事業費(千円)			25,514	514	25,000	0	0	0
国県補助金/地方債 名称		事業NO		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) イ(ア) 情報通信基盤の整備	1 / 2
事業概要	現状課題	○南相馬市、飯館村の情報通信基盤の未整備地区がある。 ○圏域を繋ぐ八木沢地域で携帯電話が不通話の地域がある。	
	取組内容	○携帯電話不通地域の解消並びにICTインフラの整備を図りながら、これらの基盤を有効かつ効果的に活用して、共同・連携したシステムを構築することにより、圏域内のネットワーク強化を促進する。 南相馬市の役割：①情報通信基盤の整備 ②現有システムの有効活用 スポーツ施設予約システム、図書館蔵書予約システム、防災情報の電子メール配信 ③八木沢地域の携帯電話不通話の早期解消 飯館村の役割：①情報通信基盤の整備 ③八木沢地域の携帯電話不通話の早期解消 ④システムの導入	
	成果	○圏域の住民がすべてブロードバンドサービスにアクセスし、その利便を享受できる環境が実現できる。	

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①-1情報通信基盤の整備 ・光ファイバ敷設(小高、鹿島)	南相馬市	72,345	72,345				
	①-2情報通信基盤の整備 ・光ファイバ敷設	飯館村	486,000	486,000				
	②現有システムの有効活用 ・スポーツ施設予約システム ・図書館蔵書予約システム ・防災情報電子メール配信の運営経費	南相馬市	60,506	12,106	12,100	12,100	12,100	12,100
	③八木沢地域の携帯電話不通話の早期解消 ・現況調査 ・サービス提供者との協議	南相馬市 飯館村		調査・協議				
国県補助金/地方債 名称		事業N0	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
地域情報通信基盤整備推進交付金(国)		①-1	24,000					
地域活性化・公共投資臨時交付金(国)		①-1	43,200					
合併特例債		①-1	4,500					
過疎債		①-2	477,000					

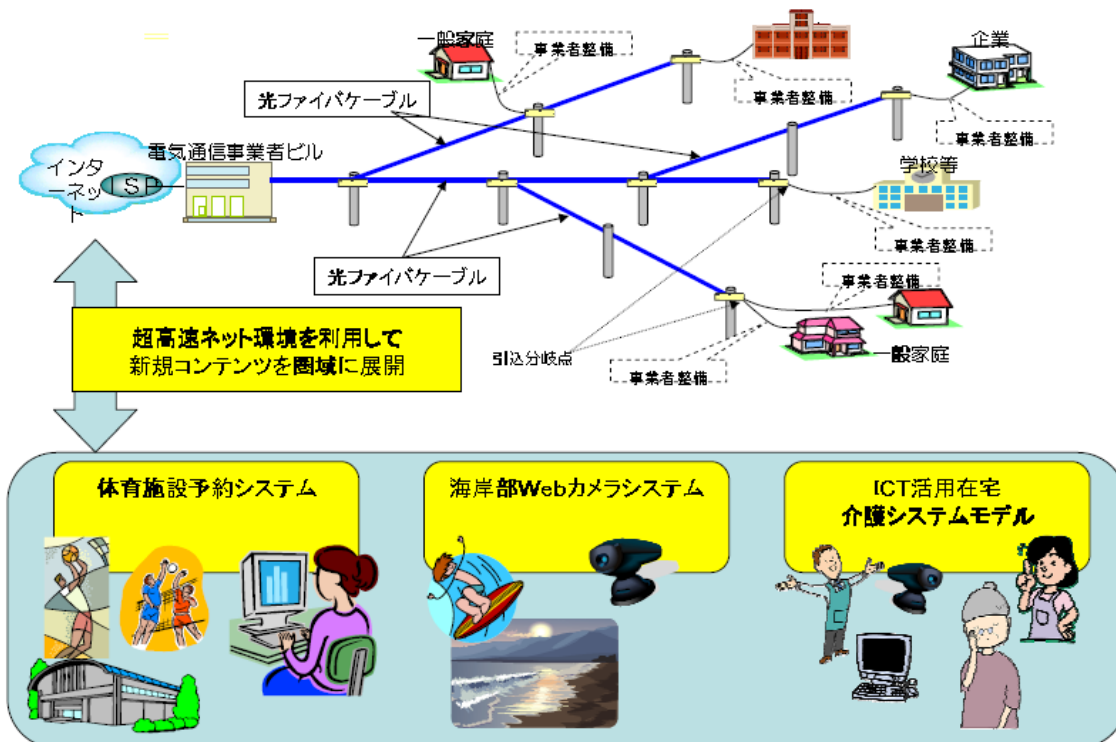
* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) イ(ア) 情報通信基盤の整備						
年度別計画		事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
年度別計画・事業費(千円)	④システムの導入 ・双方向情報端末整備による住民告知サービスの提供	飯館村	650,000					650,000
	事業費(千円)		1,268,851	570,451	12,100	12,100	12,100	662,100
	国庫補助金/地方債 名称	事業N0		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	過疎債	④						650,000

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

地域情報通信基盤整備の概要図



(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) ウ(ア) 圏域の相互連携による地産地消の推進	1 / 2
事業概要	現 状 題	<p>○米の消費減少や米価の低下などにより、農業産出額は大きく減少し農業経営を圧迫しており、効率化、集約化や高付加価値化をはじめ、販路拡大などが求められている。</p> <p>○食の安全に対する消費者の信頼が揺らいでおり、国内産の顔が見える安全安心な食への要求が高まっている。</p>	
	取 組 内 容	<p>○圏域内の地域産品販売及び情報受発信の中核的施設である道の駅、サービスエリア地域拠点施設、まちなかひろば及びもりの駅が相互に連携し、人や物の交流の促進や情報を共有し、消費者ニーズに的確かつ迅速に対応しながら地産地消を推進するとともに、圏域外へ情報を発信する。</p> <p>南相馬市の役割：①直販所と生産者のネットワークを構築 ②中核的直販所の管理運営の支援 ③サービスエリア地域拠点施設の整備</p> <p>飯館村の役割：②中核的直販所の管理運営の支援 ④生産者との連携強化や情報の受発信</p>	
	成 果	<p>○地域特性を活かした作物の生産販売によって、効率的かつ安定的な農林水産業経営が展開される。</p>	

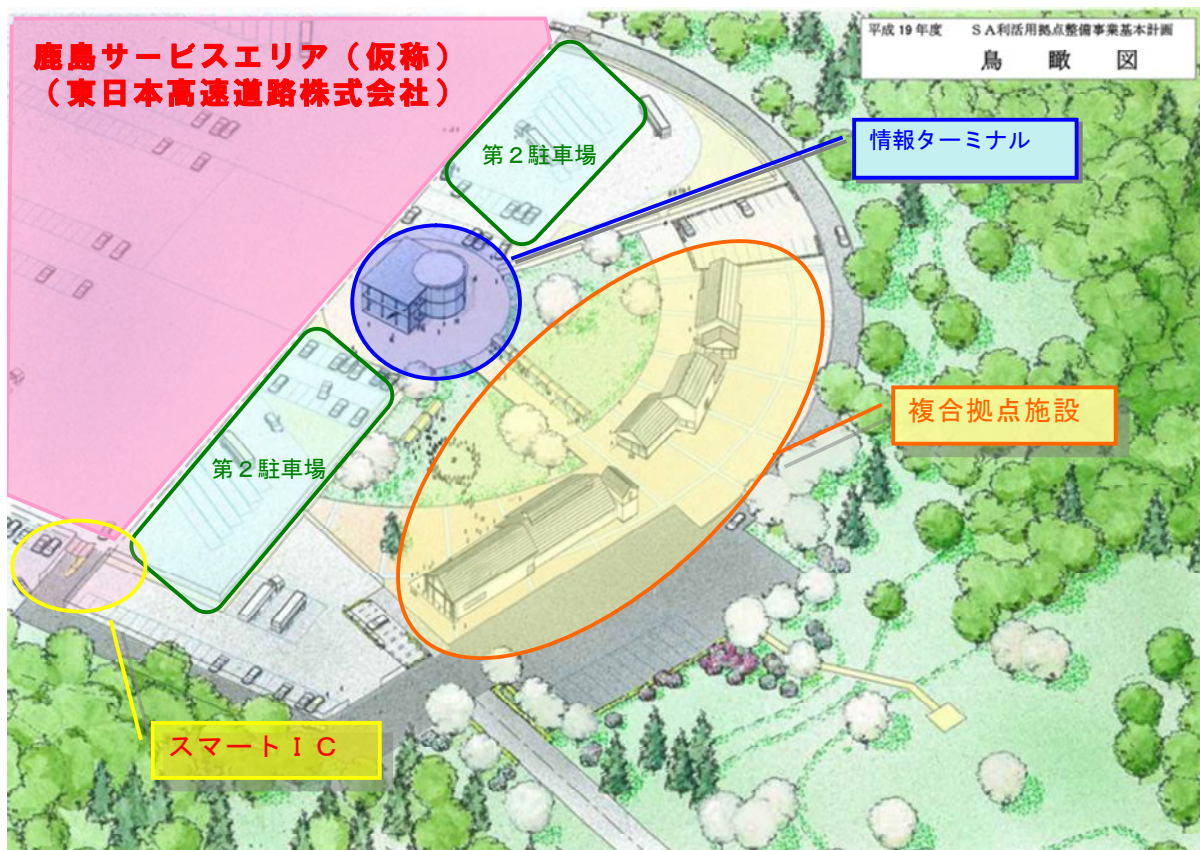
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①直販所と生産者のネットワークを構築	南相馬市	500	100	100	100	100	100
	②-1中核的直販所の管理運営の支援 ・まちなかひろば ・道の駅「南相馬」	南相馬市	48,819	4,819	11,000	11,000	11,000	11,000
	②-2中核的直販所の管理運営の支援 ・もりの駅「まごころ」	飯館村	25,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	③サービスエリア地域拠点施設の整備 ・情報ターミナル ・物産販売・加工施設 ・イベント交流施設 ・休憩施設	南相馬市	1,787,000	525	30,000	500,000	800,000	400,000
国県補助金/地方債 名称		事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
合併特例債		③		28,500	475,000	760,000	380,000	

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) ウ(ア) 圏域の相互連携による地産地消の推進						2 / 2
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	④生産者との連携強化や情報の受発信 ・連絡協議会の支援 ・情報誌の発行支援	飯館村	6,403	2,403	1,000	1,000	1,000	1,000
	事業費(千円)		1,867,722	12,847	47,100	517,100	817,100	417,100
	国県補助金/地方債 名称	事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。



(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) エ(ア) 地域資源を活用した都市農村交流拡大と定住促進 1 / 2
事業概要	現状課題	○人口減少化社会の到来により、労働力の減少による地域経済の縮小や従来の社会制度の見直しが余儀なくされることから、持続可能なまちづくりを進める上で、地域力を高めるために定住人口の拡大を図る必要がある。 ○都会生活者を中心に、「ゆとり」や「やすらぎ」、健康志向を求める傾向が強まり、ふるさと回帰や田舎暮らし注目されていることから、その仕組みづくりが求められている。
	取組内容	○農家民宿などの地域資源を活かすとともに、それぞれの協議会の連携を図る。また、受入施設の整備拡充に加え情報の受発信により、都市農村の交流拡大とIJUターン者などによる移住者の受入れを促進する。 南相馬市の役割：①農家民宿の整備支援やハートランドはらまちの再整備 ②子ども農山漁村交流に対応した協議会活動の支援 ③定住や交流希望者に対する情報発信 飯館村の役割：②子ども農山漁村交流に対応した協議会活動の支援 ④山村の自然景観や農村資源の活用
	成果	○“まち”に活力が生まれ、新たな市民とともに、支え合いながら安心して暮らすことができる持続可能なまちづくりを実現することができる。

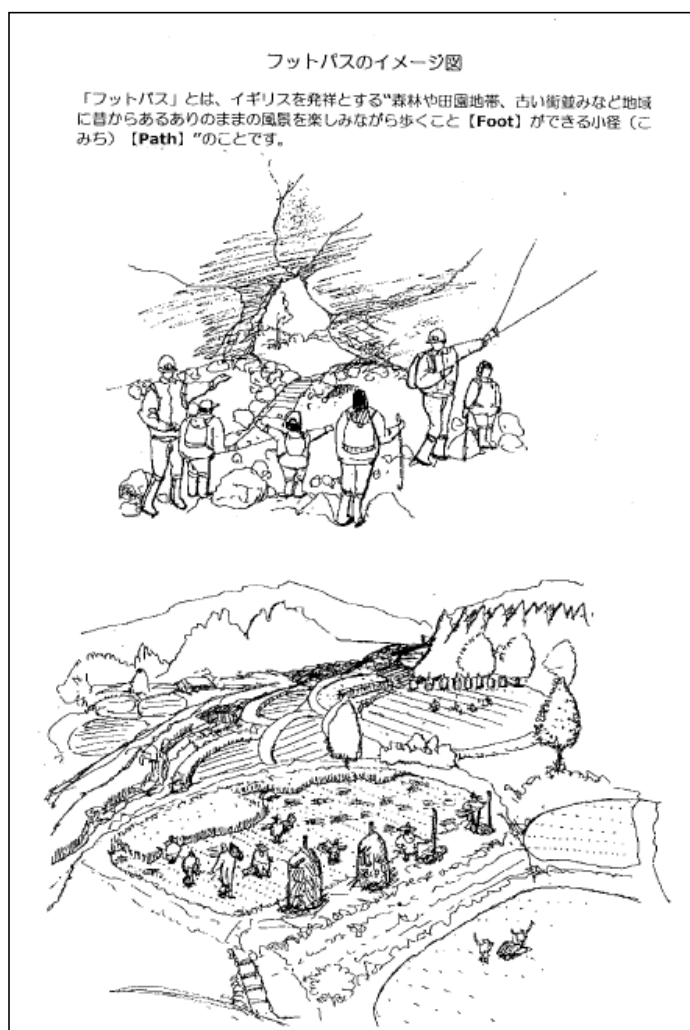
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①都市農村の交流拡大 ・ハートランドはらまち管理運営 (農家民宿の整備支援など)	南相馬市	19,928	3,928	4,000	4,000	4,000	4,000
	②-1子ども農山漁村交流の推進 ・協議会活動への支援 (体験交流プログラム調査研究)	南相馬市	3,000		750	750	750	750
	②-2子ども農山漁村交流の推進 ・「教育旅行」的体験事業の支援 (飯館村観光協会(仮称))	飯館村	8,000		2,000	2,000	2,000	2,000
	③ふるさと回帰支援センター運営 場所 道の駅「南相馬」内 時間 午前9時～午後4時	南相馬市	13,446	2,646	2,700	2,700	2,700	2,700
国県補助金/地方債 名称		事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) エ(ア)		地域資源を活用した都市農村交流拡大と定住促進				2 / 2
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	④フットパスの整備	飯舘村	435,000		5,000	30,000	200,000	200,000
	H22 実施計画策定 H23 設計 H24 以降 整備工事							
	事業費(千円)		479,374	6,574	14,450	39,450	209,450	209,450
	国県補助金/地方債 名称	事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	過疎債	④			30,000	200,000	200,000	

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。



(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(2) オ(ア) 各種審議会等の共同設置と運営						
事業概要	現 状 課 題	○地域資源を有効活用するため各種審議会や施設等を共同で設置しているが、同様の取扱いを継続するとともに、新たに市民サービスの向上が見込まれる施設等について検討が必要である。						
	取 組 内 容	○圏域の課題を共有し、限られた地域の資源を効果的、効率的に活用するため、各種審議会等についてはできる限り共同で設置し、運営する。 南相馬市の役割：①各種審議会等の設置運営 飯館村の役割：②各種審議会等の運営経費の負担						
	成 果	○審査の迅速性が図られ、市民サービスが向上するとともに、施設を効率的に運営することができる。						
年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①各種審議会等の共同設置と運営 障がい程度判定審査会 介護認定審査会 心身障がい児就学指導審議会 児童生徒結核対策検討員会 火葬場 し尿処理施設	南相馬市	816,561	163,361	163,300	163,300	163,300	163,300
	②各種審議会等の運営経費の負担 均等割、件数割等に応じて算出した金額を負担する	飯館村	120,018	24,018	24,000	24,000	24,000	24,000
	事業費(千円)		936,579	187,379	187,300	187,300	187,300	187,300
	国県補助金/地方債 名称	事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	障がい者自立支援法施行事務費補助金	①	1,145	1,145	1,145	1,145	1,145	

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

協定書項目・事業名		(3) ア(ア) 圏域内自治体職員の人材育成と相互交流
事業概要	現 状 題	○市民ニーズの多様化、予想を上回る少子高齢化の進行、回復の兆しがなかなか見えない雇用情勢などにより、自治体の行財政環境は厳しさを増している。人的資源は、自治体が持つ最大の資源であり、個々の職員が持つ能力、資質を最大限に引き出すといった経営資源の有効活用を図る必要がある。
	取 組 容	○職員の資質向上及び圏域マネジメント能力を強化するため、合同研修、職員の相互派遣交流を行う。 南相馬市の役割：①集合研修の実施及び乙の職員の参加の機会の設置 ②相互人事交流制度の創設 飯館村の役割：③研修会への積極的な参加
	成 果	○多様化・高度化する市民ニーズに対応した均衡ある行政サービスの提供が、将来に亘って持続的に提供できる。

年度別計画・事業費(千円)	年度別計画	事業主体	総事業費	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	①-1職員研修事業	南相馬市	78,977	15,777	15,800	15,800	15,800	15,800
①-2職員研修事業	飯館村	10,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
②相互人事交流制度の創設	南相馬市 飯館村		条件等の検討		制度創設	派遣実施		
事業費(千円)			88,977	17,777	17,800	17,800	17,800	17,800
国県補助金/地方債 名称		事業NO	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	

* 継続する事業の総事業費は、5年間の合計額を記載している。

定住自立圏共生ビジョン懇談会名簿

政策分野	団 体 名 等	氏 名
	福島大学	丹治 惣兵衛
医 療	相馬郡医師会	木幡 学
福 祉	福島県自閉症協会 相双地区分会	岡 幸枝
教 育	としょかんのTOMOみなみそうま	森岡 こう
	南相馬市体育協会	堀川 直人
産業振興	南相馬市原町区認定農業者連絡協議会	八津尾 初夫
	飯舘村認定農業者連絡協議会	長谷川 健一
	小高観光協会	林 仁子
	相馬双葉漁業協同組合 鹿島支所	林 節子
環 境	農村環境アドバイザー	武田 徹
	山楽講	濱田 光弘
地産地消	道の駅南相馬	大竹 健次
	飯舘村直売所連絡協議会	佐藤 八郎
交流移住	野馬追の里 IJU 推進委員会	門馬 浩二
	宿泊体験館きこり	本名 洋文

【事務局】 南相馬市役所 総務企画部 企画経営課
飯舘村役場 総務課